

第42回

愛知県中学生体重別柔道大会

審判監督会議資料



令和8年2月28日（土）

愛知県武道館 第1競技場

第42回愛知県中学生体重別柔道大会

審判監督会議

1. 中学部会会長あいさつ 仲田昌弘 会長（豊川市立赤坂小学校）
2. マット・タテの紹介 国立病院機構三重病院 田川 剛志 先生
名古屋市立大学大学院 八木 清 先生
3. 救護員の紹介 愛知県柔道整復師会 水野雅仁 先生 ・ 佐藤鉦樹 先生
4. 受付場所、計量会場・計量時間、ウォーミングアップ、試合会場、柔道衣コントロールについて
 - (1) 受付場所・受付時間
 - ア エントランスコート、8時30分～9時00分
 - イ 「コーチ確認書」の提出
 - ウ 監督・コーチヘリストバンドの配付・IDカード（補助生徒）の発行
 - (2) 更衣
8時30分～8時50分
 - ・男子 第1競技場観覧席
 - ・女子 更衣室
 - (3) 計量会場・計量時間
 - ・男女ともに第3競技場で9時00分～9時45分
 - (4) ウォーミングアップ（育成リーグ）
 - ・育成リーグ
9時30分（予定）～ 大会本部の指示により、各試合会場にて練習開始
 - ・体重別柔道大会
第3競技場でウォーミングアップ可
 - (5) 試合会場
終日 第1競技場
 - (6) 柔道衣コントロール
開会式終了後すぐに各試合場で実施
5. 審判（監督）打ち合わせ 村松 秀樹 審判長
 - (1) 国際柔道連盟試合審判規程及び国内における「少年大会特別規程」による。
 - ア **試合時間は3分間とする。決勝戦はゴールデンスコアを適用し、時間無制限とする。準決勝までは、旗判定で勝敗を決する。**
 - イ 「一本」「技有」「有効」又は「僅差（指導差2）」の内容によって勝者を決定する。
 - ウ 「技有合わせて1本」を適用する。
 - エ 準決勝戦までは、技の評価は「有効」以上とするが、技の評価が同等の場合で、「指導」差が2以上開いたとき、少ない選手を「僅差」の優勢勝ちとする。**指導差が2以上無い場合は旗判定によって勝敗を決する。**
決勝戦は、技の評価は「有効」以上とするが、技の評価が同等の場合、「指導」差が2以上開いたとき、少ない選手を「僅差」の優勢勝ちとする。規定の試合時間が終了した時点で、試合両者にスコアがない場合、もしくはスコアが同等である場合、「指導」差が2ない場合、その試合はゴールデンスコアに突入する。
 - オ ゴールデンスコアに入る前の規定試合時間内に与えられたスコア、ならびに罰則は、引き続きスコアボードに反映される。スコアが与えられた時点で、ゴールデンスコアは直ちに終了する。ゴールデンスコア中に「指導」が与えられた場合、与えられた選手が相手よりも多くの「指導」を受けたことになる場合、その試合は終了する。
 - カ 抑え込みのスコアは、「有効：5秒以上10秒未満」「技有：10秒以上20秒未満」「一本：20秒」とする。

(2) 次の場合は、ゴールデンスコア方式により、勝敗を決める。

同時「一本」、累積による両者「反則負け」

(3) 柔道衣コントロール

① 現行の(公財)全日本柔道連盟柔道衣規格に合格した柔道衣(上衣・下穿き・帯)を着用すること。

ア、上衣・下穿きは、IJFロゴ(赤)またはJU0000/JUB000の赤文字ラベルのもの

イ、帯は、IJFロゴ(赤/青)またはJU000の赤文字/黒文字ラベルのもの

② ゼッケンの着用 ※下記の図参照

柔道衣背部にゼッケン(チーム名・名字入り)を着用

ウ、布地は白色(晒、太綾) ② サイズは 横30~35cm 縦25~30cm

エ、名字(姓)は 上側 2/3 ④ チーム名 下側 1/3

オ、書体は太字ゴシック体(明朝、楷書でもよい)男子は黒色、女子は濃い赤色

カ、縫い付けの場所は、後ろ襟から5~10cm下部の位置で、周囲と対角線を強い糸で縫い付ける。

③ 柔道衣の大きさ ※下記の図参照。2025年度までは移行期間とし、日本中体連柔道競技支部からの通知に従う。

キ、胸骨上部頂点から襟の交差部が10cm以下、上衣を前で重ねた下襟の距離が25cm以上(図1)

ク、帯の結び目から端が20~30cm(図2)

ケ、袖の長さが腕を真っ直ぐに伸ばして掌で三角形を作った状態で、手首の骨を含めて腕全体が覆われる長さ

コ、上衣が前後同等の長さでお尻を完璧に覆っていて、帯からの長さが階級の規程に合っている

(73kg以下の階級:20cm以上/73kg以上の階級:25cm以上)(図3)

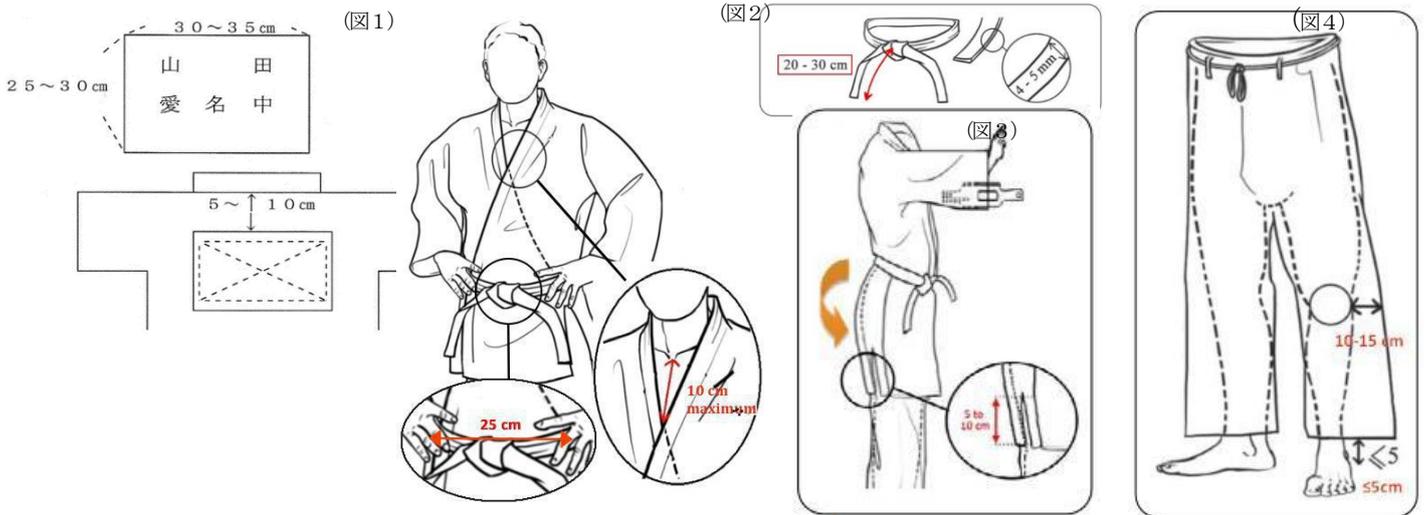
サ、下穿きの長さは、裾口からくるぶしの外側までの距離が5cm以下、幅は膝の位置で10cm~15cm(図4)

④ 女子選手のTシャツ

シ、色は白(透けない)、半袖、丸首

ス、製造業者のマークは最大30cmで柔道衣着用時に見えないもの

セ、所属名称や所属エンブレムを左胸につけることは認められ、最大100cm



(4) その他申し合わせ

① 各試合審判団で3人の審判員によって進める。ただし、決勝戦は1人の審判委員を加える。

② 医師と整復師の先生で、救護係を行う。

③ 各試合場、審判団に従い、準決勝戦まで行う。(3位決定戦は行わない)

④ 同所属の試合は審判団から外れる。

⑤ 決勝戦の審判団は、放送にて連絡する。

⑥ 直接または、累積の「反則負け」及び、延長戦での勝敗が決まる「指導」では、原則、合議する。

⑦ 技の判定が2段階以上の差がある場合(「一本」と「有効」等)は、原則、合議する。

⑧ 審判員は、試合の始めと終わりの開始線での「礼」を厳しくコントロールする。

⑨ 監督・コーチの服装は、審判員に準ずるものを原則とする。

⑩ 審判に対して、監督・コーチからの抗議は認めない。

⑪ 「試合場におけるコーチの振る舞いについて」を適用する。

⑫ 「脳震盪対応について」を適用する。

⑬ 貴重品の管理は自己責任とする。

6. 国際柔道連盟試合審判規定(2025. 4. 1 施行ルール)及び国内における「少年大会特別規定」(2022. 4. 1 施行ルール、2024. 4. 1 一部変更)において、次の点に留意する。

(1) 技の判定について

「有効」※新ルール適用

(2) 場外に出る行為

「指導」①立ち技で組まないで場外に出る②寝技ではって場外に出る。※新ルール適用

(3) 逆背負い投げ(通称)

「待て、指導」※旧ルール通り

(4) 立ち姿勢において、相手の上衣の袖の中に指を入れて組み手を取った場合

直ちに「待て、指導」※旧ルール通り

(5) 寝姿勢において、相手の袖・下履きの裾の中に指を入れた場合

直ちに「待て、指導」※旧ルール通り

(6) ダイビングヘッド

「反則負け」※旧ルール通り

(7) ユージングザヘッド

「待て、指導」※新ルール適用

(8) ヘッドディフェンス

「待て、指導」※新ルール適用・ブリッジは従来通り「一本」